動中の静

令和５年度　第９学年　学年通信　ＮＯ．14
令和５年５月１６日（火）

花は歩けない

月曜日の朝、９年生の教室の前にいると一人の子が花に水をあげていました。ただ上から水をかけるのでなく、外の器から出して、花や葉を傷つけないように一つ一つに丁寧にあげていました。「お花が好きなの？」という私の問いかけに「教室の花に限るけど…」と答えてくれました。花がある教室は、雰囲気が違いますからね。その後、教室を見ると窓辺の花が気持ちよさそうでした。

考えてみれば当たり前ですが、花は自分から水を飲みには行けません。歩くことができないからです。自然界で考えてみます。たんぽぽの綿毛のように種として飛んで行っても、その先で全く水がない所に落ちれば芽を出すことなく終わります。芽が出たということは、運がよく、その場所は水が得られる場所だったということです。そこで水を得ながら精一杯花を咲かせていくでしょう。しかし、部屋に飾られる花は違います。水が全く得られないところへ連れていかれるのです。その上、根を構える土も限られていますから水を豊富に蓄えているわけではありません。自分ではどうすることもできない環境に生きています。水が欲しくても歩けません。「水をください。」と声を出すこともできません。ですから、その部屋の人が誰も水をあげなければ黙って枯れて、遠くへ逝ってしまいます。気にして、水をあげる子が一人でもいるクラスでは花は安心です。そんな子が複数いれば、花はもっと安心でしょう。長く咲き続けることができるでしょうね。その教室に暮らす子の意識で花の寿命が決まるのです。４月の初め、各教室に花の鉢を置きました。花を最後まで咲かせたクラスと途中で枯れさせたクラスがありました。最後まで咲かせたクラスは、意識できる人がいたクラスなのです。花は歩けないのですから。

これは、花のことだけではないのです。花にまで意識できるクラスなら、一緒に生活する仲間に対して意識できないわけがありません。そうやってお互いに気遣い合える生活は、きっと安心できるものとなるでしょう。そんな教室を、環境を、学園をみんなでつくっていきたいですね。そこであなたは、今、周りをどれくらい意識できていますか。今日、廊下の窓を開けたのは誰でしょう。教室の電気を点けたのは？配付物を配ってくれた人にお礼を言えましたか？

教室の花が枯れずに咲いているのが当たり前ではないように、私たちの生活も当たり前のことなど何もないはずです。しかし、私たちは当たり前のように生活ができています。そこには誰かの「おかげ」が必ずあるのです。